

# 郡山消防 火災概要 (車両編)

H30.5

平成20年から29年までの10年間の郡山広域消防管内の火災件数は1406件で、そのうち車両火災は143件発生し、火災全体の約10%を占めています。

火災の発生種別	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	総計
建物	82	82	79	71	73	84	61	63	58	62	715
車両	18	11	16	17	12	9	19	15	14	12	143
船舶					1						1
林野	10	21	10	15	4	11	10	6	7	5	99
その他	38	69	42	65	37	49	43	32	46	27	448
計	148	183	147	168	127	153	133	116	125	106	1406

車両火災143件の出火原因は下表のとおりです。

出火原因の内訳	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	総計
排気管	3	3	3		2	1	4	2	6	4	28
電気装置・配線			3	6	2	1	4	1		1	18
内燃機関	1	1		1		2	1	1		1	8
衝突の火花				2	2					3	7
たばこ		1	1			1		1			4
その他	14	6	9	8	6	4	10	10	8	3	78
計	18	11	16	17	12	9	19	15	14	12	143

## 主な内容

- ・整備不良により、エンジン内で潤滑不良が起こり、コンロッドが破損、エンジンブロックに穴が開き、マフラーに接触し出火
- ・ガソリンと軽油を間違えて給油したため、失火が起こり、触媒が異常過熱し、周囲の樹脂類から出火
- ・整備後、エンジンルームにウエスを置き忘れ、排気管に接触し出火
- ・事故の衝撃でエンジンが破損、エンジンオイルが排気管に接触し出火
- ・バッテリー接続部の緩みから発熱、発火
- ・電気配線被覆の劣化によりボディーと接触、スパークし出火
- ・HIDヘッドライトを自ら取り付けたため、走行中にはずれ、周囲の樹脂類に接触し出火
- ・エンジンルーム内で枯草等（鳥の巣）がエンジン上に集積し、エンジンの熱で出火
- ・4WDのトランスファーオイルがなく潤滑不足が起こり、リアプロペラシャフトが脱落、ガソリンタンクを破損、火花が発生し出火

整備不良や改造での火災が多く発生しています。  
点検整備の励行、火災予防にご協力をお願いいたします。